



Data

監督：アトム・エゴヤン

出演：コリン・ファース／リース・ウィザースプーン／ディン・デハーン／ミレイユ・イーノス／ブルース・グリーンウッド／イライアス・コティーズ／スティーヴン・モイヤー／アレックスandro・ニヴォラ／エイミー・ライアン／ロバート・ベイカー／ケヴィン・デュランド／ジェームズ・ハムリック

👁️👁️ みどころ

本作が「BASED ON A TRUE STORY (真実に基づく物語)」として観客に提示するのは、1994年に起きたウエスト・メンフィス事件。8歳の男児3人の猟奇殺人事件の容疑者とされた「ウエスト・メンフィス3」と呼ばれる3人の若者たちには、ひょっとしてアメリカの裁判史上最悪の冤罪事件の可能性が……。弁護士の私の目からみれば、本作のアプローチにはかなりの説得力を認めるが、さてあなたは？

時あたかも日本では、兵庫県尼崎市の連続変死・行方不明事件で、殺人などの罪に問われた角田美代子元被告(自殺)の裁判員裁判が神戸地裁で始まるが、裁判員の拘束時間は最長の132日間。若手弁護士や司法修習生には「本作必見！」だが、それはこれから裁判員になるかもしれない多くの日本国民も同じでは……。



■□■BASED ON A TRUE STORY■□■

「BASED ON A TRUE STORY」つまり「実話に基づく物語」を「売り」にした映画(?)はよくあるが、本作はアーカンソー州ウエスト・メンフィスの地域社会を戦慄させた、男児3人の殺害事件に基づく物語だ。

1993年5月5日から翌6日にかけて、自転車で遊びに出た8歳の男児スティーヴィー、マイケル、クリストファーの3人が行方不明となり、「ロビン・フッドの森」と呼ばれる緑地の小川で死体となって発見された。それぞれの手足を靫紐で縛られた3人の体には、人間の所業とは思えない暴行の跡があったから、スティーヴィーの継父テリー・ホブbs (ア

レッサンドロ・ニヴォラ)と母パム・ホプス(リース・ウィザースプーン)、クリストファーの父ジョン・マーク・バイヤーズ(ケヴィン・デュランド)らが嘆き悲しんだのは当然。同時に、ギッチェル警部(レックス・リン)を捜査責任者とするウエスト・メンフィス署による早期の犯人検挙に地域住民の期待が寄せられたのも当然だ。

行方不明になった3人の男児を最後に目撃したのは誰?それは何時頃?どこで?そんな肝心な情報が乏しい中で、遺体になっているかもしれない3人の男児を捜し出す作業がどれほど大変かは、本作導入部を見ればよくわかる。小川に浮いている靴を発見したブライアン・リッジ刑事(ロバート・ペイカー)が小川に入り、文字どおり手探りで水の中を探していると、何と水底には裸で手足を縛られた男児たちの遺体が……。

■□■「ウエスト・メンフィス3」とは?3人逮捕の根拠は?■□■

3人の男児殺害事件の容疑者として約1カ月後にまず逮捕されたのは、17歳の若者ジェシー・ミスケリーJr(クリス・ヒギンズ)。そして彼の自白を基に、18歳のダミアン・エコールズ(ジェームズ・ハムリック)と16歳のジェイソン・ボールドウィン(セス・メリウエザー)の2人が逮捕された。これが通称「ウエスト・メンフィス3」と呼ばれる3人のティーン・エイジャーたちだ。

3人の容疑者うちの最年長のダミアンは、いつも黒い服を着てヘヴィメタルを愛聴し、オカルトへの興味を隠さない異端児で、彼らは3人とも「悪魔崇拝者」だったため、本件の犯行動機はダミアンが主導して3人の男児を儀式の生け贄にするためだったとまことしやかに伝えられた。そのため、地元は3人を激しく糾弾し、全米のメディアがウエスト・メンフィスの町に押し寄せてきた。そこでは、被害者クリストファーの父ジョンがマスコミの取材に対して饒舌に答えているのが目立っていた。どこにでも、そんな目立ちたがりの男はいるものだが……。

弁護士として私が不思議に思ったのは、ダミアンたちの犯行を裏付ける物的証拠が何もないこと。本作冒頭は、アロン少年の「ロビン・フッドの森にある悪魔の巣窟。そこで起こったことは、僕しか知らない」というモノローグが流れるが、これは一体ナニ?アロン少年はヴィッキー・ハッチソン(ミレイユ・ノイス)の息子だが、彼女はカード詐欺事件の被疑者として警察に弱みを握られていたから、ひょっとして警察に作り話を……?そして、ひょっとして警察はそんな証言だけでジェシーを逮捕したの?それはよくわからないが、ダミアンとジェイソン逮捕の決め手になったのはジェシーの自白だ。しかし、ジェシーが知能の発達が遅れた少年であることを考えると、彼の自白はアロン少年の話を鵜呑みにした警察によって強要された可能性があったのでは……?

■□■本作にみる問題提起のアプローチは?■□■

「事実に基づく物語」と言っても、何を事実として捉えるか、その判断自体が難しい。

そのため、一定の物語を作るについては当然主観や判断が入り込むことを、弁護士生活40年の私はよく知っている。つまり、こんな猟奇殺人事件を素材として取り上げて「BASED ON A TRUE STORY」の映画を作る場合、さまざまなアプローチ方法があるわけだ。しかして本作は、調査会社のロン・ラックス（コリン・ファース）の視点を根本に据え、犯人逮捕から裁判に至る経過を詳細に「点検」というスタイルをとっているのが大きな特徴だ。

今から20年前のアメリカであれば、世間の注目を集める犯罪捜査やその裁判については高度な情報化が進んでいるから、ダミアンらの逮捕にそんな問題点があれば、その逮捕とその後の起訴については当然さまざまな疑問点が提起されたはずだ。そこで本作が、その問題提起の代弁者として注目し、登場させたのが、経験豊富な私立探偵で調査会社代表のロン。「BASED ON A TRUE STORY」だから、当然このロンは実在の人物だし、本作に描かれているような行動をとったわけだが、なぜアトム・エゴヤン監督は男児3人殺害事件を「BASED ON A TRUE STORY」として映画化するについて、そういうアプローチをとったの？本作を鑑賞するについては、まずそんな点をしっかり押さえておきたい。

■□■本作の鑑賞にはパンフレットの勉強が不可欠！■□■

本作は、3人の被害者とその両親たち、犯人の逮捕に懸命になるギッチェル警部をはじめとするウエスト・メンフィス署の面々、そして通称「ウエスト・メンフィス3」と呼ばれる、逮捕されたスティーヴィー、マイケル、クリストファーの3人とその周辺の男女たちが、入り乱れて登場するので、その整理が大変。パンフレットの中にある「CHARACTERS 主な登場人物」や「TIMELINE 事件の流れ」を整理しながらしっかり鑑賞しなければ、ワケがわからなくなってくるはずだ。

奇しくも日本では、兵庫県尼崎市の連続変死・行方不明事件で殺人などの罪に問われた角田美代子元被告（自殺）の「裁判員裁判」が、11月19日から異例の長期となる132日間の予定で始まったが、さて、バーネット判事（ブルース・グリーンウッド）の法廷で始まった男児3人の殺害事件の審理は？

担当検事はジョン・フォーグルマン（スティーヴン・モイヤー）。他方「ウエスト・メンフィス3」それぞれの弁護士は、ジェシーの弁護人がダン・スティッドム（マイケル・グラディス）、ジェイソンの弁護人がポール・フォード（マット・レッシュャー）、ダミアンの弁護人がヴァル・プライス（クリス・ポラーハ）だ。そして、もともと死刑反対論者で、10代の容疑者3人が死刑判決を受けることを危惧したロンは、3人の弁護士に無償協力をすることになったが、さて弁護側の体制はそれで十分・・・？

■□■裁判の中で、捜査上の不備があれこれと・・・■□■

刑事事件は起訴した検察側が被告人の有罪を立証しなければならぬから、弁護側はそ

の立証にケチをつければよい（反証）という立場。そんな原則の下で私は若い頃、5件の無罪判決を勝ち取っているのが1つの自慢だ。それはともかく、スクリーン上で展開される法廷シーンを見ていると、ウエスト・メンフィス事件の審理では警察の捜査の不備が目につく。

そのポイントは次の3つだ。第1は、前述のように、3人の殺人事件という重大事件であるにもかかわらず、何の物証もないこと。しかも、5月5日の夜、血まみれの黒人男性がレストラン「ボージャングル」の女性用トイレに駆け込んだ後に姿を消したため、重要な証拠としてその血痕を採取したにもかかわらず、リッジ刑事は何とこれを紛失したらしい。これはあまりにもひどい。第2は、これも前述したアーロン少年の「ロビン・フッドの森にある悪魔の巣窟。そこで起こったことは、僕しか知らない」との供述のいっぺん減殺。本作では、このモノログが何度もくり返されるが、カード詐欺の被疑者である母親のヴィッキーが、自分の罪を免れることと引き換えに万が一にもアーロン少年に虚偽の証言をさせているとしたら・・・？法廷で実施されるいかにも怪しげな女・ヴィッキーの証人尋問には、じっくり注目したい。第3は、アーロン少年の証言をもとに、リッジ刑事がギッチェル警部立ち会いで、17歳の若者ジェシーを12時間も尋問したのに、録音は46分

しかしていなかったこと。

これではジェシーが公判で自白を撤回したら、公判を維持するのが困難になることは明らかだ。

検察側が被告人を起訴するについては、被告人を有罪にすることができる十分な証拠を持っているのが当然だが、こんな無謀なことで、起訴するにあたり警察が収集した証拠を十分検討したと言えるの？



『デビルズ・ノット』配給：キノフィルムズ
©2013 DEVILS KNOT LLC. ALL RIGHTS RESERVED. レーティング：PG12

■□■弁護側の体制は？バーネット判事の訴訟指揮は？■□■

本作では弁護士費用の点までは描いていないので、3人の弁護士が国選か私選かはわからないが、彼らはそれなりに一生懸命弁護活動をしていることはよくわかる。ロンのような男が無償で弁護士に協力してくれればありがたいことはまちがいないが、ある局面では「俺たちは時間的にも経済的にもギリギリの中で頑張っている！」「文句があるなら、自分

が法曹資格を取って自分でやれ！」とロンに怒りをぶつけるシーンもある。たしかに、そんな弁護士気持もよくわかる。ロンや3人の弁護士の懸命の努力にもかかわらず、審理の方向が全く好転しないのは、偏にバーネット判事の訴訟指揮が検察側に偏っているためだ。

ジェシーが自白を撤回すると、バーネット判事はジェシーの公判をダミアン、ジェysonと分離して行くことを決定したが、さてその意図は？法廷では、捜査上大切な黒人男性の血液を紛失したとリッジ刑事が証言したため、弁護団はそれを厳しく追及したが、それについてのバーネット判事の判断は？さらに、オカルトに関する専門家として検察側が申請した証人が何の学問的資格も持っていなかったことが暴露される尋問シーンはあまりにもひどい。検察側のチョンボだから、証人としての適格性がないという弁護側の追及は当然。しかるに、そこでバーネット判事が示した訴訟指揮は？

これでは弁護側は「やってられぬー」となるのは当然だが、そんな風にかなり偏った訴訟指揮による審理を経た後に下された判決は？

■□■他方の主人公はリース・ウィザースプーン演じるパム■□■

アンジェリーナ・ジョリーは、「失踪」「発見」「別人」をストーリーの軸とした映画『チェンジリング』（08年）で、母親の息子への究極の愛を見せつけて第81回アカデミー賞主演女優賞にノミネートされた（『シネマルーム22』51頁参照）。それと同じように、本作では1人息子スティーヴィを非道な殺され方で失ってしまった母親のパムが、もう一方の主人公となる。『キューティ・ブロード』（01年）、『メラニーは行く！』（02年）（『シネマルーム2』168頁参照）、『キューティ・ブロード ハッピーMAX』（03年）（『シネマルーム3』287頁参照）で小気味いい行動的な女性エル・ウッズ役を演じ、また、『ウォーク・ザ・ライン 君につづく道』（05年）ではジューン・カーター役を演じて、第78回アカデミー賞主演女優賞を受賞（『シネマルーム9』91頁参照）したリース・ウィザースプーンが、本作では8歳の息子スティーヴィの母親として、いかに過酷な現実と向き合い、難しい裁判と向き合っていくかというシリアスな役を見事に演じている。

とはいっても、素人の女性がこれだけ複雑な刑事裁判をいくら傍聴しても、なかなかその問題点を理解できるはずはない。しかも、ロンがパムに接触しようとする、テリーが頑なにそれを拒否したから、パムからロンに接触をして何をどう考えるべきかを聞くことすらできない。パムは被害者の母だから、当然被告人として法廷で審理を受けている「ウエスト・メンフィス3」に対する反感は持っているはずだが、他方でジョンのようにマスコミに被告人たちの悪行をかなり立てる姿に違和感を覚えたのも当然だ。

本作中盤の法廷シーンでは、パムは必死に訴訟の進行を追っかけていだけだったが、素人でもじっくり法廷傍聴を続ければ、「これは何かがおかしい！」ということに気づいてくることが本作のパムを見ているとよくわかる。本作では、そんなパムが判決言渡し後に

見せる、あつと驚く行動に注目！

■□■これはひょっとして米裁判史上最悪の冤罪事件？■□■

私は2010年に『名作映画から学ぶ 裁判員制度』（河出書房新社）という本を出版した。同書では、第1章「裁判員になったつもりで一陪審映画の名作を観て考えよう」の中で、『十二人の怒れる男』（57年）をはじめとする陪審映画の名作をとりあげた。また、第2章「陪審員は難しい—人が人を裁くということ」の中では「ジョン・グリシャムの映画あれこれ」を取りあげた他、「日本映画で裁判の疑似体験をしよう」とのタイトルで『ゆれる』（06年）、『疑惑』（82年）、『事件』（78年）、『HERO』（07年）等の作品を評論した。そして、第4章「冤罪の恐さを考える—DNA鑑定はどこまで識別できるのか」では、『それでもボクはやってない』（06年）、『つぐない』（07年）、『霧の旗』（65年、77年）をとりあげた。

本作のメインストーリーは中盤の大半を占める法廷シーンだが、その結論は「ひょっとしてこれは冤罪？」と思えるような「ウエスト・メンフィス3」への有罪判決が下されて終わってしまう。しかし、本作の問題提起は、その後の時間にすれば数分間の展開で、ステイーヴィが大切にしていた1本のナイフをめぐってパムがある重要な行動を見せるのでそれに注目！ステイーヴィは事件の時もこのナイフを持っていたはずだが、水中からナイフは発見されなかった。なのに、パムが家の中を探し回った結果、テリーの道具箱の中でそれを発見したからビックリ！これは一体なぜ？どういうこと？ひょっとして・・・？判決言渡後、無力感に襲われたロンがなぜ事件現場に赴いたのかは不明だが、同時にパムもその場に来ていたのはきっとパムも何かを感じたためだ。そこではじめて交わされる2人のそのナイフをめぐる会話は、今後の展開を想像させるに十分だが、さてその展開は？

ウエスト・メンフィス事件の3人の容疑者は逮捕され、裁判を経て有罪が確定したのは客観的かつ歴史的な事実。しかし、果たしてその裁判は正しかったの？犯人とされた「ウエスト・メンフィス3」のティーン・エイジャーたち3人はひょっとして冤罪だったのでは？もしそうだとすると、これはアメリカの裁判史上最悪の冤罪事件になるのでは・・・？日本では、高橋伴明監督の『BOX 袴田事件 命とは』（10年）が袴田事件の真相に迫ったが（『シネマルーム25』40頁参照）、さて本作は？

■□■デビルズ・ノットとは？他の劇映画では？■□■

本作のタイトルになっている「Devil's Knot（デビルズ・ノット）」とは一体ナニ？これは直訳すれば「悪魔の結び目」という意味。もちろん、これだけでは何のことかわからないが、本作をみれば、被害者となった男児3人の手足を縛った靴紐を連想させるもので、ウエスト・メンフィス事件を象徴的に表現したものだということがわかる。本作のパンフレットの中には高橋諭治の「不確かで危うい“真実”の本質を問う異色ミス

テリー」があり、そこではウエスト・メンフィス事件について『Paradise Lost』3部作（96年、00年、11年）や『ウエスト・オブ・メンフィス 自由への闘い』（12年、WOWOWにて放映）という劇映画が作られていることが詳しく紹介されている。

本作で観るとおり、バーネット判事が1994年に下した判決は、ジェシーに対しては、マイケル殺害の第1級殺人と他の2名の殺害の第2級殺人で有罪とし、終身刑と禁固40年。ダミアンとジェイソンに対しては、2人とも3件の第1級殺人で有罪とし、ダミアンには5月5日の死刑、ジェイソンには仮釈放なしの終身刑というものだ。

他方、パンフレットにある「TIMELINE 事件の流れ」を読めば、①2007年にDNA分析の結果、ステイーヴィの継父テリーの体毛が、マイケルを縛った靴紐にあった体毛と

一致することが判明。②2011年にダミアンら3人はアーカンソー州と特殊な司法取引をし、釈放される、と書かれており、それは本作のラストの字幕でも表示される。また、パンフレットを読めば「当事者たちは語る」というコーナーで、パムとジェイソンのナマの言葉を寄せているので、それにも注目。さらに、『ウエスト・オブ・メンフィス 自由への闘い』では、本作のラストで暗示されるとおり、パムの夫である「テリー犯人説」の可能性を徹底的に掘り下げているようだ。

残念ながら、本作は「テリー犯人説」をほのめかしたところで「ジ・エンド」となるので、「これは冤罪？」という疑問については、観客の一人一人が考えなければならない。もし、判決言渡し後パムが胸の中に持ち始めた疑惑の内容を聞かされたとしたら、さてあなたはどんな行動を？刑事裁判のあり方を考える司法修習生必修の教材として、本作を活用して欲しいものだ。



『デビルズ・ノット』配給：キノフィルムズ
©2013 DEVILS KNOT LLC. ALL RIGHTS RESERVED.
レーティング：PG12
2015年6月26日（金）Blu-ray & DVD リリース
価格：Blu-ray/¥4,700（税抜）DVD/¥3,800（税抜）
発売：キノフィルムズ 販売：KADOKAWA 角川書店

2014（平成26）年11月21日記